

ヘルスケアミーティング 2024 でお会いしましょう

古市貴暢 (コアメンバー)

10月13～14日、年に一度のシンポジウム「ヘルスケアミーティング2024(以下、HCM)」が開催されます。今年は会場を一橋大学の一橋講堂(東京・千代田区)に移し、リアル会場とオンライン(Zoom)での開催です。

毎年、必ず参加している方も、学会に入会したけど参加したことがない方も、以前は参加していたけど最近はお無沙汰な方にも参加しやすいHCMを準備しています。たくさんの方々と10月に一橋講堂でお会いできるのを楽しみにしております。

1日目のメインテーマは、「歯周基本治療からはじまるヘルスケア歯科診療」です。歯周基本治療は、ヘルスケア歯科診療の基本であり中核です。僕が本会に入会したとき、藤木省三さんや高橋啓さんの、初期・中等度歯周病に対する丁寧かつ確実な歯周基本治療の症例に驚かされ、そのような治療が日常的に行える医院づくりを目指しました。10年近く経ち、丁寧な歯周基本治療が「自分なりに」行えていると思えるようになりました。しかし先日、改めて「自分なりに」の歯周基本治療を振り返ってみると、粗が多く、10年前に目指した藤木さんの症例からは程遠い現状を知ることになりました。

今年のキーワードは「原点回帰」です。1日目には藤木さん監修のもと、「初期・中等度の歯周炎を正しく治癒に導き管理する」ための歯周基本治療に必要なX線撮影(滝沢江太郎さん)、口腔内規格写真(大本幸加さん)、歯周組織検査(志摩裕美さん)について、それぞれ講演されます。また藤木さんの基調講演と併せて、大西歯科の野村朱美さんに「院長先生の役割」についてチーム医療としてのヘルスケア歯科診療をスタッフの目線から解説していただけたと思います。

1日目の最後にはワークを含んだディスカッションを企画しています。さまざまな講演を聞いて感じたこと、ヘルスケアを再確認して思ったことなどを、与えられたテーマをもとに会場・オンラインのみなで一緒に考えていきましょう。ヘルスケア歯科診療はチーム医療です。診療に対する一人ひとりの捉え方が、診療室をよりよくしていくと思います。2日目は「あっちもこっちもヘルスケア」というテーマを用意しました。1日目のメインテーマだけにとらわれない自由な講演になると思います。メインホールだけではなくサブ会場を2カ所用意して、計3カ所での同時進行になります。ご自分の興味のある演目を自由に選んでいただき、参加していただきたいと思います(なおオンライン参加の方は、メインホールの講演のみ配信されます)。

岡賢二さんと藤木省三さんの「ホームデンティスト・プロフェッショナル番外編」、たかはし歯科の皆さんによる「ヘルスケア診療きほんのき」、斉藤仁さん等による「ヘルスケア歯科診療の壁」、安岡大介さん等による「ヘルスケア歯科医院とDx」では、ヘルスケア診療所の医院作りにおけるヒントが聞けるとと思います。また山田美穂さん等の「ヘルスケアDHの力で全国の患者さんを健康に!」や増永初音さん等による「ヘルスケア歯科衛生士から」では、認定歯科衛生士という立場からのヘルスケア歯科診療を具体的に知ることができるでしょう。

午後からは藤木さんが中心になって考案された新しいSRPのテクニック・UP-SRPについてご紹介いただきます。初期・中等度の歯周炎を正しく治癒に導き管理する効果的で低侵襲な方法として、ぜひみなさまの診療所でも活用していただきたいです。

さて、同志社大学を創設した新島襄は、大学設立の旨意の中で「一年の謀(はかりごと)は穀物を植えるにあり。十年の謀は木を植えるにあり。百年の謀は人を植えるにあり」と述べています。これは歴史好きには馴染みの春秋時代・斉の管仲が言った「一年之計莫如樹穀、十年之計莫如樹木、終身之計莫如樹人」から引用されています。人々の健康を守り育てる日本ヘルスケア歯科学会が目指す歯科医療の在り方も、歯科医療人を育てることに重きを成しています。研究会設立から四半世紀が経過し、新たな四半世紀さらには百年の計を考える際に、ヘルスケア診療の原点に帰る今年のテ

2024.9.4

ーマとまさに合致しています。今年の会場になる一橋講堂入口の交差点を挟んだ向かい側、学士会館のそばに新島襄の生誕地の碑があります。もし HCM に参加された際に時間がありましたら、信号交差点を渡って、生誕地の碑で一樹百穫について考えていただければ幸いです。